

【続報】9月議会報告

9月11日に開会された定例市議会は10月2日、最終日を迎え、市長から提案された議案28件はすべて賛成多数、もしくは全会一致で可決されました。可決された議案のうち、若竹学級(学童保育)の民間委託にかかわる議案には付帯決議がつけられました。

日本共産党市会議員団は28件のうち14件に賛成、問題点のある14件には反対しました。

◆またも民間委託！

小学校の給食にかかわる調理・洗浄業務はすでに民間委託されていますが、今回は契約更新のための補正予算です。これに加えて教育委員会は小学校の空き教室などで実施されている学童保育(若竹学級)を2020年4月から民間委託する方針を明らかにし、そのための費用を債務負担行為として計上してきました。指導員のなり手がいないことが理由だと言いますが、



今年の9月、10月は例年に比べ、真夏並みの暑さが続いたせいか、通常ならば10月に入るとすぐに香りだす金木犀が、10月中旬になってやっと花が咲きだしました。その金木犀もすでに散ってしまっています。朝夕の気温差で体調を崩しがちな季節ですが、空気がカラッとして過ごしやすい時期でもあります。

今年の冬は暖冬との予報もありつつ、短い秋の日を楽しみたいですね。



待遇改善や保育の質の向上など何度も改善を求めてきたにもかかわらず、そこには手を付けずいきなりの民間委託することはあまりにも拙速だと意見を述べました。

◆会計年度任用職員制度

国は来年度から、非常勤やアルバイトなど非正規職員の待遇について、「会計年度任用職員制度」として定め、各地方自治体にも条例化および制度化を求めています。非正規職員の待遇改善という点で、これまで通り働き続けることができる人にとつては収入が増えることになり、前進面もあります。しかし、民間企業には無期雇用への転換という仕組みがあるのに対しこの制度にはそういうしくみがありません。

和歌山市はこれからも民間委託を増やす方針であり、「会計年度任用職員制度」へ切り替える

ことで増える経費も、民間委託で人件費を減らす方向へ進もうとしています。そもそも、公務労働は人気の定めない常勤職員を中心に運営するべきであり、非正規雇用が固定化される恐れのある制度は問題があると指摘しました。

◆マイナンバー制度

地域情報化推進事業(国庫補助金)を使って国は地方自治体にマイナンバーカードを普及させようと躍起になっています。この費用は国の補助金として

ポスターやチラシを作成し、市民にマイナンバーカード作成を促そうというのですが、個人情報流出の危険性に対する問題は依然として解決されていません。

政治革新の道しるべ、
真実つたえ希望はこぶ
しんぶん 赤旗
日刊●月 3497円
日曜版●月 930円

全国大会誘致和歌山市議会議員連盟 誘致活動のため東京へ

10月23日(水)〜24日(木)、
 全国大会誘致議員連盟の誘致活動で、
 東京に出張しました。毎年、和歌山市
 で全国大会や学会、スポーツ大会、合
 宿を開催してもらうためにスポーツの
 協会や大学、協業組合などに宣伝に行
 っています。

和歌山市で大会を開催し、宿泊して
 いただく一人当たりの補助金を出す
 制度があり、これを活用してもらうよ
 う働きかけています。

今年はレスリング協会、卓球協会、
 東京医療保健大学へ行かせてもらいま
 した。卓球協会は前にも和歌山市へ来
 てくださった
 実績があり、
 次も期待して
 いますと伝え
 てきました。



懇談のようす↑



オリピック施設前で

お知らせ

◆無料法律相談

11月14日(木)18:00~

11月26日(火)13:30~

12月18日(水)18:00~

(12月は1回のみ)

森下さち子事務所にて (井辺144-77)

* 事前に予約をお願いします。

市役所控え室森下まで

TEL 435-1113



◆和歌山市母親大会

11月16日(土)13:30~16:00

あいあいセンター4F

ドキュメンタリー映画「轟音」の上演と講演

「一緒に考え、語り伝えよう！」

講師 古久保健さん(「轟音」著者)

*参加協力券 400円

*どなたでも参加できます。

*保育の申し込みは11/13まで

連絡先 TEL 073-471-7317

和歌山市母親大会実行委員会



話だそうです。



10月から
 新しい朝ドラ
 が始まりまし
 た。信楽焼に
 挑む女性のお

まだ、序盤なので、ヒロインは
 大阪で下宿屋さんの賄いをしつつ、
 美術学校を志すという段階です。
 これがどのように信楽焼へとつな
 がっていくのか、楽しみです。こ
 のところ続けて、太平洋戦争直
 後から描いているところが共通
 していますが、たまたまなのでし
 ょうか。当時の子どもが戦災孤児
 だったり、極貧の生活だったりす
 る場面がいくつも出てきました。

戦後74年がたち、戦争体験者
 も少なくなりつつある中、どれだ
 けその悲惨さや理不尽さを語り伝
 えていけるのか、私たちの責任で
 もあると感じつつ、毎朝たくまし
 くなっていくヒロ
 インと心を一つに
 しています。

